

人生ハンド仏句

ばこそ、又、

夜遅くまでパ

任職 谷川寛俊

新年明けましておめでと

う御座います。

本年も何卒宜敷くお願い

申し上げます。

「人生ハンド仏句」も、お

陰梯で第二十二号を発行

する事が出来ました。これ

もひとえに、毎月こりずに

読んで下さる方がいれ

ソコンに向かって入力作
成してくれる家内や寺族

の者達の協力があってこ

そ、本日まで続けられた事

と感謝に堪えません。願わ

くば、今後共御指導、御叱

正賜りますよう、お願い申

上げます。

第22号

H. 16. 1. 1

(毎月1日発行)

年の初めに様々な希望を持ち、かつ又、

神仏に様々な願いを込めてお祈りをし
たことでありましょう。

それが、叶うか叶わないかは、一年経
つてみないことには分からないことで
しょうが、仏様神様の思し召しよろし
く願いが叶っているのに分らないで
過ごしていることが、往々にしてあり
ます。「宝くじが当たりますように。」

等という願いは論外として、日々これ
何事もなく過ごさせていたでいてい
ること自体、年初に「この一年家族一同
無事息災で過ごせますように。」と祈っ
た願いが、叶っていることに他ならな
いと思います。

無事であること自体、家族が気を付け
ていたからと言う思いがあるので、そ
れが仏様、神様のご加護であることに
気が付かないで過ぎていきます。

信心の原点は、そう言った日常のささ

生まれていく
大きな不幸、

行部 蓮成集
山部 真編
寺部 真編
編集玉
0・FAX (0765)
22-2268
メールアドレス

悲しみから菩提心を起こして信心をな

さる方々も沢山おられると思えますが
それはそれで信仰への一つの道であり
ます。しかし、そうして入った信仰に
よって、不幸が、悲しみが、無くなる
わけではないのであります。不幸も非

しみも事実として目の前にあるのであ
り、無くなるわけではない。信仰によ
って不幸や悲しみが消えて無くなるわ
けではない。信仰によって、不幸や非

しみをそのまま受け入れることが出来
るようになるのです。不幸は不幸とし
て、悲しみは悲しみとして、上手につ
き合っていくようになるのです。

信心によって、不幸や悲しみが無くな
らないと信心をやめてしまう。それけ
信仰と言うことをはき違えているから
なのです。止めないで信心を続けてい
きたいものです。続けていけば、何事

も有るがままに受け入れていけるよう
になり、それが「実(まこと)の道」に

抑(そもそも)今の時
法華経を信ずる人あり。

或は火の如く信ずる人もあり、

或は水の如く信ずる人もあり、

聴聞する時はもへたつばかりを
もへども、とほざかりぬれば、

水の如くと申すは

『現代語訳』

さて今時、法華経を信心する人々のなかには、火のような信心をする人と水のように信心する人があ
る。法華経を聞いた時は、燃え立つ程に熱するが、少し遠のくと段々
に冷めて遂には法華経を捨てて
仕舞うことになる。水の信心とい
うのは、いつも絶えず心にかけて
忘れないのをいいます。